



# 私は

一枚の絵に会いに

市川へ行く

美術館の中の

一枚の絵の前に立つ

一本の道の描かれただけの絵

どこへ行こうと行けそうな

どうということのない

野のまっすぐな道

その先は右にも左にも行ける

まっすぐ下るのかもしれない

そんなことを思いながら

その絵の道をいつのまにか

歩きつづけている

絵の中の風に吹かれて

絵の中の日差しを浴びて

絵の中の道を歩いている

いつのまにか

一枚の絵になった

